

第1号報告

平成24年度 事業計画

(平成24年4月1日から平成25年3月31日)

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成24年度継続する委員会

- 1) コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会 (平成23-24年度)
- 2) 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会
(平成23-24年度)
- 3) 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会
(平成23-24年度)
- 4) データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会
(平成23-24年度)
- 5) ASR診断の現状とあるべき姿研究委員会 (平成23-25年度)

(B) 平成24年度に設置される委員会

- 1) コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会 (平成24-25年度)
- 2) コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会
(平成24-25年度)
- 3) コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会 (平成24-25年度)
- 4) 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会
(平成24-25年度)
- 5) コンクリート構造物のインフラドック構築フェージビリティ調査研究委員会
(平成24-26年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) コンクリート基本技術調査委員会
- 2) マスコンクリートソフト作成委員会
- 3) 長期性能シミュレーションソフト作成委員会
- 4) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針」英文化委員会
- 5) 既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会

6) サステナビリティ委員会

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 北海道におけるコンクリート研究の変遷調査研究委員会
- 2) (北海道支部) 鉄筋コンクリート構造物のモデルコード研究委員会
- 3) (北海道支部) 既存コンクリート構造物の構造特性把握技術の現状調査研究委員会
- 4) (中部支部) 実大コンクリート構造物を利用したモニタリング研究調査委員会
- 5) (近畿支部) 性能評価型コンクリートに向けた骨材調査研究委員会
- 6) (中国支部) ごみ溶融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会
- 7) (中国支部) 打設管理記録に基づくコンクリート構造物の品質確保に関する研究会
- 8) (中国支部) 低強度コンクリートに関する特別研究委員会
- 9) (四国支部) 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会
- 10) (四国支部) フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会
- 11) (四国支部) コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会
- 12) (九州支部) サバルト繊維補強ポリマーの乾式吹付け工法
- 13) (九州支部) 温暖化環境下におけるコンクリート施工品質の確保に関する研究専門委員会
- 14) (九州支部) コンクリート構造物の劣化実態の評価分析」研究専門委員会

*** 研究専門委員会等の活動計画**

(1-A-1) JCI-TC111A コンクリート構造物のひび割れ進展評価手法に関する研究委員会

(平成 23-24 年度)

既往のひび割れ評価法の整理、ひび割れ進展を評価可能な実験手法の検討、ひび割れ進展を評価するための解析手法の検討、各種劣化事例に対するひび割れ進展評価法の検討、などひび割れの形態そのものに着眼して、既往の知見の整理と実験や解析手法の適用範囲や可能性を検討しながら、ひび割れ進展評価の現状と今後について整理する。さらに、共通実験を行い、各種方法による実験ならびに解析的なひび割れ進展評価法の精度評価を行う。

(1-A-2) JCI-TC112A 鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会

(平成 23-24 年度)

コンクリートの変状から鉄筋腐食した RC 構造物の構造・耐久性能、その将来変動、補修補強による効果を統一的に評価可能なツールの構築のために、以下の具体的目標を達成することとする。

- (1) 鉄筋腐食性状の評価とその将来予測手法の確立
- (2) 材料劣化（腐食鉄筋、腐食鉄筋とコンクリートの付着）の構成則と数値シミュレーション

ョン

(3) 鉄筋腐食した RC 部材の構造性能評価手法の確立（土木学会標準示方書に準拠）

(4) 構造・耐久指数 ID(t) の確立

(5) 実構造物への(1)～(4)の適用方法と補修補強手法提言

(1-A-3) JCI-TC113A 混和材積極利用によるコンクリート性能への影響評価と施工に関する研究委員会

(平成 23-24 年度)

混和材の積極使用による品質面および施工面への影響を整理し、混和材の従来以上の高添加の可能性を追求する。さらに、混和材の高添加で得られる環境面の評価を行い、その効果を得るために生じる施工面の対策を検討する。これらの材料面および施工面の検討をもとに、現状の規準類に対しての改善提案をまとめる予定である。

(1-A-4) JCI-TC114A データベースを核としたコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会

(平成 23-24 年度)

WG1 では、山口県のひび割れ抑制システムを、「コンクリート構造物の品質確保指針 2012 版」に発展させて、2012 年 8 月の発刊を目指す。山口県のデータベースシステムの高度化についての議論を継続し、実際のシステムにフィードバックする。

WG2 では、各地域の先駆的な維持管理の取組みについての議論を継続する。青森県、山口県、長崎県、福島県自治体、横浜市などにおいて、データベースを活用した維持管理について議論を行う。

WG3 では、山口県のデータベースの解析、データベースを活用した研究を展開する。他の事業者のデータベースを活用した研究にも着手する。

全体委員会において、将来的に学会が管理、運営、活用する新設・既設の構造物のデータベースについて議論し、構築に着手する。

(1-A-5) JCI-TC115FS ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会

(平成 23-25 年度)

ASR に関してアンケート調査を行ったが、さらにシンポジウムを開催し、一般市民、官庁、学識経験者、構造物管理者、施工者、材料業者などで、意見交換を行う。また、引き続き最新の ASR 診断に関わる技術情報を収集する「最新技術 WG」、実務者の目的に応じた診断フローを作成する「診断フローWG」、ASR により劣化した実構造物の診断事例の収集や海外における ASR 抑制対策のレビューを行い、現時点で考え得る有効な ASR 抑制対策について検討する「抑制対策 WG」の 4 つの WG を設置して調査研究活動を行う。

(1-B-1) JCI-TC121A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会

(平成 24-25 年度)

地球上に豊富にある海水は鉄筋コンクリートへの使用は認められてない。コンクリート

分野において、積極的に海水を使用することができれば、水資源を有効に活用できると考えられる。

本委員会では、練混ぜ水や養生水などへの海水の適用に関する知見を収集し、その問題点と改善策について実験、文献調査を含む検討を行ない、さらに製造方法、施工方法に関する海水の利用技術についても実験やシミュレーションを行い検討し提案する。主として、下記の項目に関して検討を行う。

- ① 海水、未洗浄海砂を用いたコンクリート構造物の事例調査（構造物調査、文献調査）
- ② 練混ぜ水、養生水に海水を使用したコンクリートの物性評価（実験、文献調査）
- ③ 海水を利用したコンクリートの性能向上および補強材の検討（実験、文献調査）
- ④ 海水を利用したコンクリートの製造・施工方法の検討（実験、文献調査、シミュレーション）

(1-B-2) JCI-TC122A コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会

（平成 24-25 年度）

本委員会の目的は、先達が残した研究の系譜を克明に辿り、論文には直接的に表れてこない研究に対する姿勢、目的を達成するための方法論を整理・体系化することにある。これを通して、コンクリート工学分野における研究の変遷史を作成するとともに、先達の研究の方法論を抽出し、その歴史的背景の理解や、他分野との比較分析を行うことにより、今後の新たな研究手法の可能性を次の方法などにより模索する。

- ① コンクリート工学の材料・構造分野における研究の歴史を、文献資料を基に編纂
- ② 先導的研究を対象に、文献調査だけでなく、当時の関係者へのヒアリング等を中心として、特に論文などには表れてこない当時の研究の背景、研究のきっかけおよび研究プロセスなどを中心に整理・体系化する。

(1-B-3) JCI-TC123A コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会

（平成 24-25 年度）

コンクリートの製造から施工、維持管理に至るトレーサビリティ確保の実現に向けて、主として a)～e)を検討し、コンクリートや PCa 製品などのトレーサビリティシステムのあり方を提示する。

- a) コンクリートおよび PCa コンクリートのトレーサビリティ確保に関する現状技術と実施状況の調査
- b) コンクリート製造・施工過程において記録・管理すべき履歴情報の整理
- c) 個々のコンクリートに識別記号を付与する技術の検討
- d) 履歴情報と識別記号をリンクさせたトレーサビリティシステムの試作
- e) 上記トレーサビリティシステムの試行実験

(1-B-4) JCI-TC124A 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会

(平成 24-25 年度)

福島第一原子力発電所の事故では、原子炉建屋から大量の放射性物質が周辺環境へ放出された。放射性物質のさらなる汚染拡大防止や放射能汚染物質の処理や処分が必要である。また、放射性物質の影響を受けたと危惧されるコンクリートの評価や処理・処分、再利用技術が必要とされている。社会的関心も高く、コンクリート工学分野としても実質的な貢献が求められている。

JCI 東日本大震災に関する特別委員会に設置されたエネルギー関連施設小委員会や材料生産・施工小委員会では、情報の収集と分析を行い、2 月 27 日に関連する 2 項目の提言を行った。今後、提言内容を具体的に検討し、成果を社会に提供していくためには、学術的な調査研究を推進することが不可欠である。原子力分野などの関係学協会などとも連携した調査研究を行う。

(1-B-5) JCI-TC125FS コンクリート構造物のインフラドック構築フィージビリティ調査研究委員会

(平成 24-26 年度)

東日本大震災復興の今後踏まれば、コンクリート既設建設物の維持管理及び点検・診断のための技術と制度の整備が必要である。しかし、現状の目視や架け替え時期判定のための点検では不十分であるため、「人間ドック」と同様なインフラドックも構築が持続可能コンクリート構造物維持のため急務と考えられる。

本委員会では、コンクリート構造物のインフラドック構築のための点検技術として現場計測法の整備、インフラドックに有用な検査法の整理・提案、また、インフラドックでの業務の制度の確立などに対処すべく、次の観点からフィージビリティ調査を行う。

- a) 有用なコンクリートの欠陥評価法の整理
- b) インフラドック現場検査手順の確立

(2-1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートに関する基本技術に有用な情報を提供することを目的に活動した。「圧送」、「打込み・締固め」、「細骨材品質」、「配合・調合」、「養生」、「不具合補修」の 6 WG において基本技術の整理を行った。このうち、不具合補修技術 WG では、「不具合の対処方法」をとりまとめ、平成 24 年度に報告会を行う。配合 WG では、成果を会誌に掲載し、細骨材 WG では、品質評価のための共通試験を実施する。各 WG とも、実務に有用な情報として、順次発信する。

(2-2) マスコンクリートソフト作成委員会

本委員会は、温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮、自己収縮を考慮した応力解析ソフト JCMAC3 のバージョンアップ、サポートおよび普及を図るため、以下の活動を行う予定である。① JCMAC3 Ver. 2.3.0 のバージョンアップ(・パイプクーリング解析機能

を追加、・I/O の機能向上等)とサポート、②JCMAC2 拡張版(仮称)の作成、リリース、サポート、③JCMAC3 講習会、④JCMAC2 拡張版(仮称)の英語版の作成とマニュアルの作成、⑤ベトナムにおけるマスコンクリート温度応力講習会の開催、⑥JCMAC の普及活動

(2-3)長期性能シミュレーションソフト作成委員会

委員会では、「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションプログラムソフト「LECCA シリーズ」の開発を主たる目的として活動を行っている。以下の事業を行う。

- (1) 「LECCA シリーズ」のうち、既に市販している「LECCA1」と「LECCA2」に対するユーザーからのクレームに対応する。
- (2) 平成 23 年度に完成した「LECCA2」簡易型バージョンソフト「LECCA2Lite」の販売を開始するとともに、その販路拡大のための説明会の開催と、このソフトに対するユーザーからのクレーム対応を行う。
- (3) 劣化シミュレーションの高度化だけでなく、劣化部位の特定、補修工法の性能評価、あるいは劣化した構造物の構造解析への連動も視野に入れた高機能型劣化シミュレーションソフト(LECCA 3)の平成 25 年度リリースに向けた開発検討作業を継続する。

(2-4)マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2008」を改訂するために、以下の内容の調査研究を行う。①ひび割れ発生確率、温度ひび割れ指数簡易式、物性の設計用値など、照査に用いる評価式の精緻化を図る。②DEF(Delayed Ettringite Formation)の現状、海外の指針における扱いなどについて調査する。③海外の温度ひび割れ制御の実情、指針等への取り込み、セメントの JIS と EN との対応などについて調査を行う。④以上の項目について、「マスコンクリートのひび割れ制御指針」への反映を検討する。

(2-5)既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会

前年度までに作成した指針(修正案)を JCI 規準委員会に諮って再査読を受けるとともに、広く会員および関連学協会の意見を収集する。それらの結果に対する必要な修正を行い、JCI 規準委員会と調整を図りながら、既存コンクリート構造物の性能評価に関する JCI 指針(最終案)を完成させる。また、JCI 指針(最終案)の説明会を実施し、参加者の意見を聞いて JCI 指針の完成への参考とする。

(2-6)サステナビリティ委員会

コンクリートサステナビリティに関する、認証登録検討 WG、教科書検討 WG、評価ツール検討 WG に加えて、新たにサステナビリティ評価指標検討 WG と「コンクリートサステナビリティ宣言」のフォローアップのための「サステナビリティフォーラム」の WG を設置して活動を進める。なお、JCI コンクリート環境士(仮称)に関するシステム等の調査・検討も合わせて行うが、これは各 WG の主査からなる幹事会で検討する。

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

- (1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- (2) ISO/TC71 対応国内委員会
- (3) アジアモデルコード研究委員会
- (4) JCI 規準委員会

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

次のコンクリート試験方法 JIS の改正に関する審議を継続する。

- JIS A 1141 骨材に含まれる密度 1.95 g/cm³ の液体に浮く粒子の試験方法
- JIS A 1142 有機不純物を含む細骨材のモルタルの圧縮強度による試験方法
- JIS A 1143 軽量粗骨材の浮粒率の試験方法
- JIS A 1147 コンクリートの凝結時間試験方法
- JIS A 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法
- JIS A 1105 細骨材の有機不純物試験方法
- JIS A 1126 ひっかき硬さによる粗骨材の軟石量試験方法

また、次の JIS の改正に関する検討を開始、必要に応じ改正原案を作成する。

- JIS A 1111 細骨材の表面水率試験方法
- JIS A 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
- JIS A 1125 骨材の含水率試験方法及び含水率に基づく表面水率の試験方法
- JIS A 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-化学法-
- JIS A 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-モルタルバー法-

(2) ISO/TC71 対応国内委員会

① ISO/TC71 および各 SC への対応

2012年6月に予定されている ISO/TC71 総会および各 SC の会合等に、SC 議長・幹事・WG コンビーナとして参加し、会の運営を図る。また、合わせてエキスパートを派遣し日本の意見を主張する。

② ISO/TC71 の SC 幹事国および SC 議長業務の遂行

平成 23 年度同様、次の SC の議長・幹事・コンビーナの役割を遂行する。

- ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長および幹事
- ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長、WG1 コンビーナおよび WG4 コンビーナ
- ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長および幹事

③ 各種 ISO/TC71 からの各種提案への対応

国内関係機関と連携し、ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。

④新規 ISO 規格の提案

日本から提案した次の ISO 規格案について各国との調整を図り、早期の規格化を図る。

- (a) ISO DIS (Draft International Standard) 14484 FRP 材を用いたコンクリート構造物の設計のためのガイドライン
- (b) ISO DIS 16311-1 コンクリート構造物のメンテナンスおよび修復-第一部 一般原則
- (c) ISO NP 16771 コンクリート構造物の耐震評価及び補修ガイドライン

さらに、次の核項目を新規作業項目として ISO/TC71 へ提案する。

- (d) コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント 第2部：システム境界とインベントリデータ
- (e) 壁式建築物の簡易耐震設計ガイドライン
- (f) プレストレストコンクリート水道タンクの簡易設計法
- (g) FRP 材料の品質規格
- (h) 繊維補強材料の試験法

(3) アジアモデルコード研究委員会

次に示す各項目についてのISO規格化を実現すべく、ISO/TC71国内対応委員会と連携して、アジアモデルコードを基とした検討を鋭意進めていく。

- (a) コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント
- (b) コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング
- (c) コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強

(4) JCI 規準委員会

研究委員会が提案した規格案・規準案に対し、JCI 規準としての要件を備えているか否かを審議、ISO、JIS 等の動きを見据えて、必要に応じた調整を行っていく。

3. 国際化事業

- (1) IMCYC 国際会議に講演者を派遣する。

2012年5月29日～31日 メキシコシティ（メキシコ）丸山久一副会長、阪田前会長

- (2) fib Steering Committee に代表委員を派遣する。

2012年6月11日～14日 スtockホルム（スウェーデン）堺および西山2名の国際委員会委員

- (3) ACI Fall Convention 国際委員会等に代表委員を派遣する。

2012年9月21日～25日 トロント（カナダ）、JCI 会長と睦好国際委員会 ACI 担当委

員

- (4) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
2013年3月ごろ パリ (フランス)、野口貴文国際委員会委員
- (5) OWICS(シンガポール)国際会議の支援を行う。
2012年8月29日～31日 シンガポール
- (6) JCI 主催で開催する 3rd JCI-KCI-TCI Symposium を実施する。
2012年7月1日～2日 (広島) 3か国シンポ実行委員会 (三橋委員長)
- (7) 1st International Conference on Concrete Sustainability(ICCS13) の準備を行う。
2013年5月27日～19日 (東京) I C C S 13 実行委員会 (堺委員長)
- (8) 3rd International Conference on Sustainable Construction Materials and Technologies(SCMT3)の準備を行う。
2013年8月19日～21日 (京都) S C M T 3 実行委員会 (宮川委員長)
- (9) ACF(アジアコンクリート連盟)の会長国として諸事業活動を積極的に支援する。
 - ・ACF 主催 フォーラム・セミナー (サステナビリティ関係)
2012年4月11-14日 (インド) /2012年10月 (タイ) 講師派遣
 - ・ACF 総会 : 2012年10月 (タイ)
 - ・ACF 技術委員会 : 2012年10月 (タイ)
- (10) 2012年6月19日～22日にサンホセ (コスタリカ) で開催される第19回 ISO/TC71 総会および各分科会に ISO/TC71 対応国内委員会ならびにアジアモデルコード委員会から委員を派遣、国内審議団体として、日本の意見を強く主張する。(メンバー未定)

4. 受託研究業務

コンクリート構造物の被災低減・早期復旧に関する国際標準の開発を目的とした受託研究業務を、ISO/TC71 対応国内委員会とアジアモデルコード委員会との連携により実施する

5. 出版事業

下記の出版物を刊行する。

- (1) 第45回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'12」
- (2) 平成24年度コンクリート技士研修テキスト
- (3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術 '13」
- (4) Journal of Advanced Concrete Technology
英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” を毎月オンラインジャーナルにて公開する。
- (5) コンクリート工学年次論文集 第34巻2012年 (CD-ROM版)

(6) 次の研究報告書を刊行する。

- 1) コンクリートの高温特性とコンクリート構造物の耐火性能研究委員会報告
- 2) 繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法研究委員会報告書
- 3) 微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会報告書
- 4) コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響に関する調査研究報告書
- 5) コンクリートに関連する品質基準・試験方法の解釈研究委員会報告書
- 6) Technical Committee Reports 2012 (JCI 研究委員会報告書要旨)

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

月刊「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。

特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1) 高機能・高性能化する繊維補強コンクリート | 平成24年5月号 |
| 2) 建設業におけるIT革命最前線 | 平成24年9月号 |
| 3) (未定) | 平成25年1月号 |

また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を年3回(1月、5月、9月)オンラインジャーナルにて公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報普及委員会のもとでJCIホームページの内容向上を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等により本学会の活動状況等について広報活動を行う。

(2) 普及活動

コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会を進める。

「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 - 2009 - 」に関して以下の項目の対応を行う。

- ① 本指針(2009版)に対する質問対策や校正
- ② 国会講習会の実施、および講師派遣要請への対応
- ③ 海外講習会(マレーシア)の実施

- ④ より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成
- ⑤ 対象を限定した個別指針の構想検討
- ⑥ 次回改訂版発刊に向けての構想検討

(3) 電子情報化委員会

電子情報化による JCI の様々な活動へのメリットならびに電子情報の有効利用方法を検討する。また、電子媒体を通じて、広く社会や会員に有用な情報を提供できるように、他委員会との連携を視野に入れて活動する。具体的には以下の活動を予定している。

- ・ 各種活動における電子情報の有効利用方法の検討
- ・ JCI 発行物の外部検索システムを用いて電子公開可能なコンテンツ検討
- ・ 会員専用ページのコンテンツの検討
- ・ 既出版物のデジタル化およびデジタルアーカイブによる資料保存の検討
- ・ メールニュースの作成および配信
- ・ メールニュースを活用した電子公開後の JCI 発行物の情報発信に関する議論
- ・ ホームページ（学会、研究委員会等）作成支援
- ・ デジタルアーカイブによる、時間的、地理的な制約を超えた資料提供に関する議論
- ・ 以上の内容を短期、中期、長期目標に区分して具体的な作業項目を示す「電子情報化委員会アクションプラン 2012」の提案

8. 震災関連事業

東日本大震災は、東北・関東一円にこれまでに経験したことのない大きな被害をもたらしており、この未曾有の震災の復旧・復興が急務となっている。

本学会は東日本大震災に関する特別委員会を設置するとともに、被害に関する震災の復旧・復興に向けた他学協会との共同活動を実施している。

(1) 特別委員会「東日本大震災に関する特別委員会」

特別委員会は、材料生産・施工小委員会、構造設計小委員会、エネルギー関連施設小委員会の 3 つの小委員会を設けて活動を行っている。活動期間 2 年目を迎え、東日本大震災による甚大な地震・津波被害に関して収集した情報を、本学会独自の観点から整理し、コンクリート年次大会 2012（広島）にて中間報告を行うとともに、復旧・復興に向けたレディミクストコンクリートの資材・製造に関する検討結果からの教訓を報告書としてまとめる。さらに、今後 JCI として取り組むべき課題に関して研究委員会にて検討する。

(2) 他学協会との共同活動

日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」および「同情報共有・連携システム」への参加、建設系 7 学会の共同提言を行うなど、他学会との共同活動を積極的に実施する。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

コンクリート年次大会 2012（広島）を7月4日（水）～6日（金）の3日間、広島市の広島国際会議場で開催する。

- 1) 第34回コンクリート工学講演会
- 2) 特別講演会：演題「東日本大震災の経験を生かした減災対策」
講師 関西大学教授 河田恵昭氏
- 3) 生コンセミナー：「やりがいのある生コンクリートに向けて
～やりがいはより良いコンクリートに繋がる～」
- 4) 見学会：①山口県における良質なコンクリートの製造現場の最前線－材料から施工まで－
②広島における歴史的コンクリート系建物と現代建築物の見学
- 5) 特別委員会報告：「東日本大震災に関する特別委員会」による中間報告
- 6) 懇親会：広島国際会議場

2. 講演会、講習会、シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第45回コンクリート技術講習会を2日間の会期で、10月に東京など全国主要都市において開催する。

(2) シンポジウム・セミナー・講演講習会

研究委員会報告会、シンポジウム等を次の通り開催する。

- 1) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト（LECCA2 Lite）作成委員会報告会
4月27日（金） 中央大学 駿河台記念館
- 2) 「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」報告会
TC-101A 微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会
日時：2012年6月1日（金）13：00～17：30
場所：東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール
- 3) 「社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討委員会」報告会（仮称）
TC-103A 社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討委員会
日時：2012年11月9日（金）13：00～17：00（予定）
場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス
- 4) 「コンクリートの高温特性とコンクリート構造物の耐火性能研究委員会」講習会
開催日、会場 5月25日（金） 東京大学 山上会館
- 5) 「コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響に関する調査研究委員会」報告会、

- 開催日，会場 8月27日（火） 品川区立総合区民会館「きゅりあん」（予定）
- 6) 「繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法」に関するシンポジウム
開催日，会場 9月20日（木） 東京大学生産技術研究所 総合研究実験 コンベンションホール
- 7) 「耐久性力学に基づく収縮影響評価」に関するワークショップ
開催日，会場 9月下旬開催を予定 会場未定
- 8) (関東支部) 支部総会特別講演会
- ① 復旧・復興へ向けてのコンクリート工学の貢献
講師：橘高義典氏（首都大学東京教授）
平成24年5月11日 JCI会議室
- ② 橋梁の津波被害およびその分析
講師：細田暁氏（横浜国立大学准教授）
平成24年5月11日 JCI会議室
- 9) (東北支部) 第8回「コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会」
- 10) (近畿支部) セメント・コンクリート関西発表会 2012/03/15
場所：大阪科学技術センター
- 11) (中国支部) ごみ熔融スラグの構造用コンクリートへの活用調査研究委員会中間報告
講師：佐藤良一氏（広島大学教授）、平成24年5月16日
- 12) (中国支部) フライアッシュのレディーミクストコンクリートへの活用調査特別委員会報告
講師：斉藤直氏（エネルギー・エコ・マテリア）、平成24年5月16日
- 13) (四国支部) コンクリートのポンプ施工指針[2011年版]&高流動コンクリートの配合設計・施工指針発刊に関する講習会
日時・場所：未定（半日程度）、土木学会四国支部主催、JCI四国支部共催
- 14) (四国支部) 生コンセミナーin愛媛
日時：未定、場所：愛媛大学内（予定）、愛媛大学工学部環境建設工学科共催
- 15) (九州支部) 特別講演会
期日：平成24年4月20日（金） 会場：福岡リーセントホテル
演題：「東日本大震災によるコンクリート建造物の被災状況」
講師：公益財団法人 鉄道総合技術研究所、渡辺健氏

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

本学会発行物に発表された論文・技術報告等の業績により、コンクリートに関する学術・技術の進歩・発展に顕著な貢献をしたと認められたものに対し、「日本コンクリート工学会賞（論文賞，技術賞，奨励賞）」を，コンクリート構造物の美的表現あるいは環境との調和に貢献したと認められたものに「同（作品賞）」を，そして本学会事業の発展のために，長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

- ・コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。（中国支部）
- ・支部功績賞、支部優秀学生賞を表彰する。（北海道支部）
- ・日本コンクリート工学会東北支部表彰規約（内規）に基づき、論文賞・技術賞・作品賞・奨励賞・功労賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。（東北支部）

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・同主任技士試験

コンクリート技士，同主任技士試験を11月25日（日），全国10都市において実施する。主任技士第一次試験合格者については，平成25年1月26日（土）に第二次試験（口述試験）を東京において行う。

(2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士，同主任技士試験合格者の登録，ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士研修を，登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として，7月2日（月）から8月10日（金）にかけて，全国15都市30会場において実施する。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

コンクリート診断士講習会を2日間の会期で，3月31日（土）から4月27日（金）にかけて，全国8都市12会場において開催する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月22日（日），全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士試験合格者の登録，ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(4) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を，登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として，コンクリート診断士研修を10月に全国7都市8会場において実施する。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2012

コンクリート工学年次大会と併行して，コンクリート関連企業および団体により，新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の推挙

定款第12条に基づき，本学会の目的達成に多大な貢献をした会員等に，別に定める規則により総会の決議を経て，該当する会員に名誉会員の称号を贈る。

2. JCI50周年記念事業実行委員会（仮称）

2015年7月にJCI設立50周年記念事業を行うために，本年度よりJCI50周年記念事業実行委員会（仮称）を立ち上げ，記念事業の基本方針を検討し事業計画を作成する。

3. 長期財政安定化委員会（仮称）の設立

少子高齢化に伴う会員の減少，資格試験の受験者の減少に対して長期的に健全な収支を確保する必要がある。そのために必要な諸事業の見直し，対策等について検討する委員会を設立する。

以上